



「復興・防災マップづくり」 実践の手引き

～郷土の自然と暮らしを知るために～

目次

1. はじめに

- 1 「復興・防災マップづくり」とは…………… 5
- 2 期待される成果…………… 6
- 3 実践の上で大切なこと…………… 7
- 4 「復興・防災マップづくり」実践校の取組み…………… 8

2. 単元計画の作成

- 1 自校化に向けた計画作成のステップ…………… 10
- 2 「復興マップづくり」単元計画例…………… 11
- 3 「防災マップづくり」単元計画例…………… 17
- 4 地域の地形，土地利用の変遷を理解するための地図とその活用例…………… 22

3. 授業と実践

- 1 準備…………… 27
- 2 学習の流れ…………… 28
- 3 マップの授業での活用…………… 38
- 4 情報プラットフォームの構築と活用…………… 39

4. 終わりに

- 教育委員会からのメッセージ…………… 42
- 実践校の教員，児童・生徒からのメッセージ…………… 43
- 大学からのメッセージ…………… 50

本手引きは「復興・防災マップづくり」ホームページでご覧頂くことができます。

▶ <http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/mapping>

別冊 目次

■ 別冊

学校における実践事例集

石巻市立鹿妻小学校	2	石巻市立住吉中学校	14
石巻市立湊小学校	4	石巻市立大川小学校	15
石巻市立渡波小学校	6	石巻市立鹿又小学校	16
石巻市立住吉小学校	9	石巻市立和淵小学校	18
石巻市立中里小学校	10	石巻市立河南東中学校	20
石巻市立湊中学校	12		

■ 別冊

ワークシート集 (Word ファイル)

WS - ①	: 保護者への依頼
WS - ②	: 地域への依頼
WS - ③	: 事前アンケート (復興マップ)
WS - ④	: 事前アンケート (復興・防災マップ)
WS - ⑤	: おうちの人にインタビューをしてみよう!
WS - ⑥	: まち歩きの計画をたてよう!
WS - ⑦	: 自由に発見をしてみよう!
WS - ⑧	: インタビューカード
WS - ⑨	: ふりかえり ワークシート 1
WS - ⑩	: ふりかえり ワークシート 2
WS - ⑪	: インタビューカード
WS - ⑫	: 復興マップのタイトルを考えよう!
WS - ⑬	: 復興マップについて発表してみよう!
WS - ⑭	: 復興マップ学年発表会
WS - ⑮	: 復興マップ発表会 (5年生用)
WS - ⑯	: 復興マップ発表会 (3年生用)
WS - ⑰	: 発表会に参加された地域の皆様へ
WS - ⑱	: 保護者の皆様へ
WS - ⑲	: 事後アンケート (復興マップ)
WS - ⑳	: 事後アンケート (復興・防災マップ)



1. はじめに

「復興・防災マップづくり」プログラムは、2011年3月11日に発災した東日本大震災の被災地である石巻市にて、市教育委員会の協力の下、防災教育に携わる東北大学、山形大学、神戸大学の研究者、国際NGOセーブ・ザ・チルドレンが学校現場の先生方と協働して始めた、学校ベースの災害復興・防災教育プログラムです。

東日本大震災から1年半後の2012年度に開始された当初は、大震災を直接経験した沿岸部の学校の子どもたちがその経験を乗り越え、被災した地域を「嫌いにならない」よう、「復興」に焦点を当てた未来志向の災害復興教育プログラムとして位置づけられました。大震災から5年を経て市内の震災復興が進む中、学校と地域の連携による地域に根ざした持続可能な災害復興・防災教育プログラムを目指して、石巻市内の沿岸部、中心部、そして津波被害を直接受けていない河南エリアへと対象を広げ、これまでに10の小中学校で「復興・防災マップづくり」として、実践が行われてきました。

さらに年月を経て、大震災を直接経験したことのない児童・生徒や先生方、そして地域住民の方々が増えていく中、地域の災害経験を学び、その経験や教訓を踏まえて次の災害で起こりうる被害を軽減していくため、地域に根差した、地域ぐるみの防災教育の重要性が増しています。そこで、東北大学災害科学国際研究所では5年間の10校での実践経験を踏まえて、今後のさらなる普及のために「復興・防災マップづくり」実践の手引きをまとめました。本冊子が「復興・防災マップづくり」に関心をお持ち頂く、石巻市内、日本、そして世界の皆様への手引書となることを願っています。

桜井 愛子

東北大学災害科学国際研究所 准教授
防災教育国際協働センター 副センター長

1 | 復興・防災マップづくりとは

「復興・防災マップづくり」は、2011年3月11日に発災した東日本大震災の被災地石巻市の小中学校において、総合的な学習の時間を用いて取組まれている災害復興・防災教育の学習プログラムです。

東日本大震災を経験した石巻市に生きる子どもたちが、「まち歩き」と「マップづくり」という「体験学習」を通じて地域の自然や歴史、復興や防災に関する情報収集を行い、地域の良さや魅力を再発見することを目指しています。また、災害からの復興が進む石巻市の子どもたちが、地域学習を通じて復興・防災に関心を持ち続け、災害に強いまちづくりに貢献していくことを期待しています。

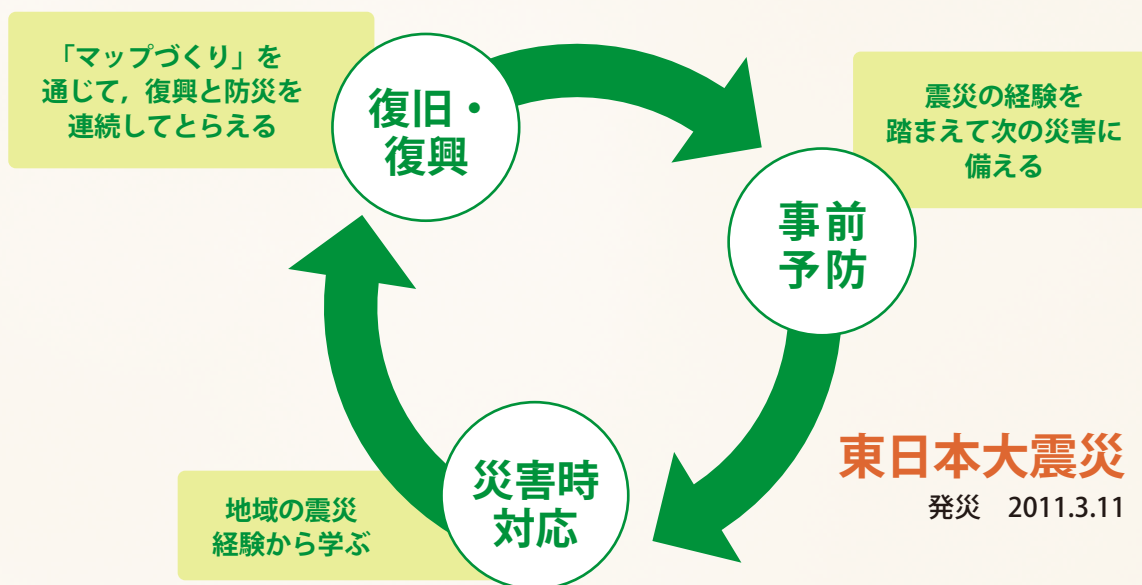


図1：災害サイクルと「復興・防災マップづくり」の位置づけ

「復興・防災マップづくり」は、基本的には以下の流れで行われます。学校、子どもたちの実情、地域の状況、扱うテーマや時数によって、適宜、変更すること、単元の一部にマップづくりを盛り込むことも可能です。

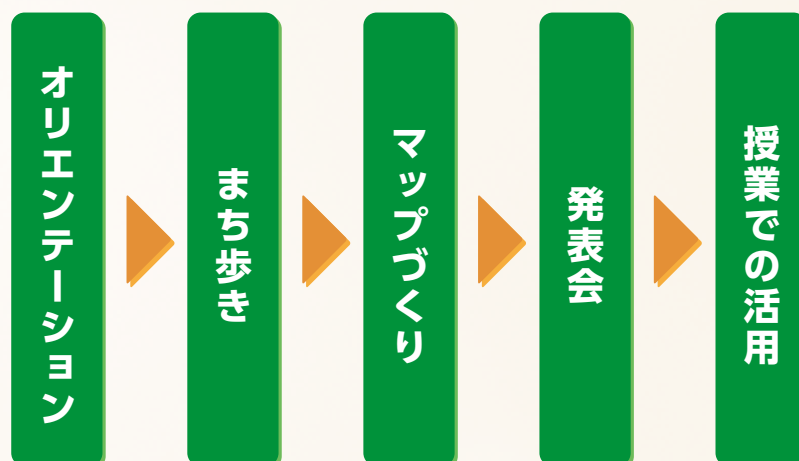


図2：復興・防災マップづくりの流れ

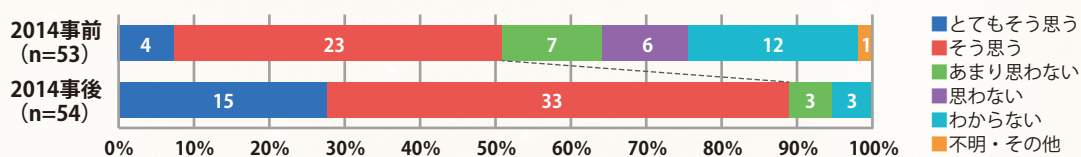
2 | 期待される成果

「復興・防災マップづくり」の実践を通じて、以下のような成果が期待されます。

- 子どもたちが地域の魅力を再発見し、地域を好きになる
- 子どもたちの地域の復興への意欲が高まる
- 子どもたちが自分たちの住む地域の地形やまち並みの変遷、地域の歴史、過去の災害履歴を知り、災害に対する脆さが時代とともに変化していることに気づき、「地域に根ざした防災」を考えることができるようになる
- 子どもたち自身が地域の役に立っているという社会的自己実現の機会になる
- 地域の復興・防災を学習することにより、子どもたちの間で防災意識が高まる
- 活動を継続することによって、学校の取組みとして学年を超えたつながりが醸成される
- 子どもたちの学習活動を通して、地域の大人と子どもたちとのつながりが育まれる
- 大人を含めた地域全体の復興や防災に対する意欲が高まる
- 将来のまちづくりの担い手を育み、持続可能なまちづくりにつながる

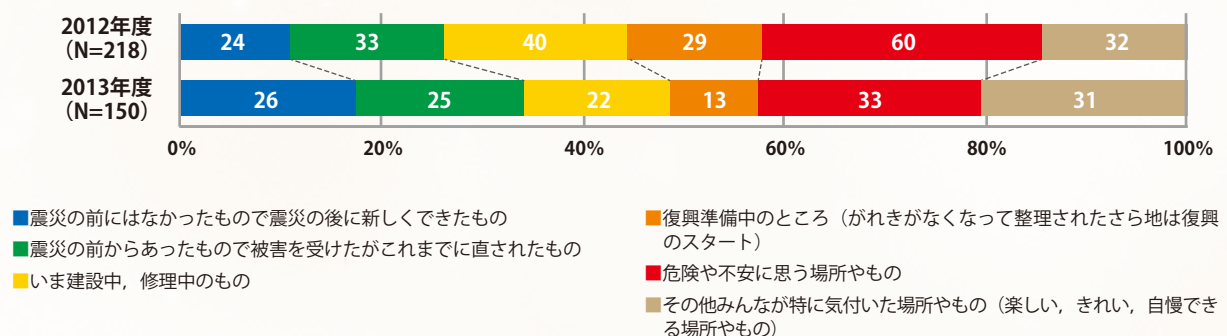
「復興・防災マップづくり」の学習を通じて、子どもたちの復興への参加意欲が高まっていることが確認されています。

図3 鹿妻の復興に、何か自分も役に立ちたいと思いますか（2014年度 鹿妻小学校4年生）



震災1年後（2012年度）と震災2年後（2013年度）の「鹿妻復興マップ」の比較から、地域の復興が着実に歩みを進めていることが子どもたち自身の手によって確認されました。

図4 「鹿妻復興マップ」における発見ポイントの分類別変化



3 | 実践の上で大切なこと

「復興・防災マップづくり」の実践に当たっては、以下の点に留意し、本手引きを参考にしながら各学校独自のプログラムとして実践されることを期待しています。

- 東日本大震災からの復興を経験した地域ならではの学習テーマや着眼点を設定すること
- 子どもたちの主体的な学習の機会とすること
- 地域との接点を設けること（インタビュー、まち歩きの見守りに保護者や地域の参加を得ること、発表会を保護者や地域に対して行うこと、等）
- 教科とのつながりを図ること（各教科で学んだ災害、防災等に関する知識を自分たちの地域へと適用し「地域に根ざした防災教育」を実現する機会とすること）
- 石巻市防災副読本、社会科副読本等の石巻独自の教材や資料等の活用を図ること
- 学校で継続していける計画とすること（欲張らず、続けていけること）
- 子どもたちの手による情報や記録を学校独自の教材として蓄積を図り、学習材として活用すること

まち歩きでのインタビューを通じて、大人から子どもへと東日本大震災の経験が伝承され、地域の大人と子どもたちとの交流が生まれ、子どもたちの間で地域への愛着が深まっていることが確認されています。

図5 鹿妻の大人やお店の人に震災や復興のお話を聞いてどう思いましたか？(2014年度鹿妻小4年生)

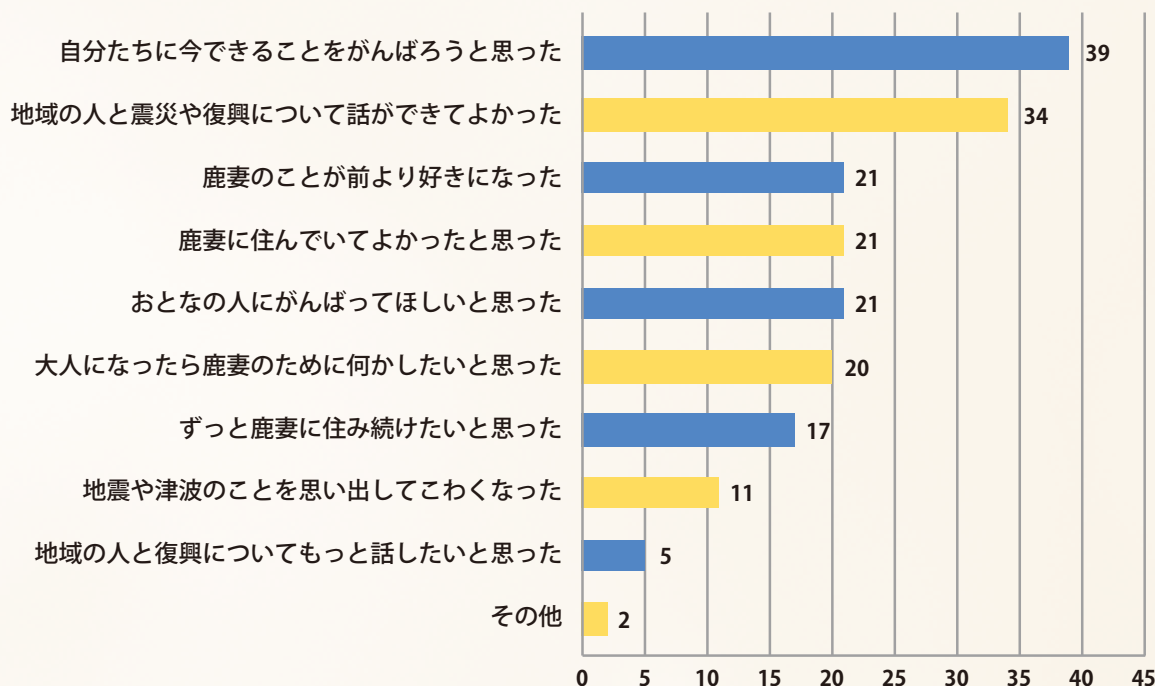


図3, 4, 5

出典：桜井愛子、徳山英理子、佐藤健、村山良之「石巻市の小学校における『復興マップづくり』の実践」安全教育学研究第14巻、(1) P.47-61, 2014.

4 | 「復興・防災マップづくり」実践校の取組み

2012（平成 24）年度より鹿妻小学校で「復興マップづくり」として始められたプログラムは、2016（平成 28）年度までに「復興・防災マップづくり」として石巻市内の小中学校 10 校（下記図 6，表 1）で取組まれています。

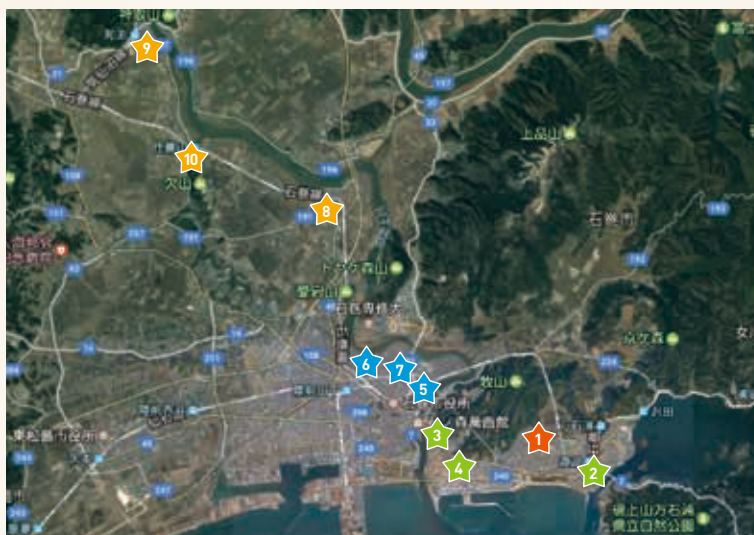


図 6：実践校 10 校のロケーション

表 1 実践校の取組み概要

学校名（図 1 位置）	開始年	対象年	時間数	主な活動内容またはテーマ
1 鹿妻小学校	2012 年度	4 年生	約 35 時間	まちの復興の記録を残し、地域の未来を考える
2 渡波小学校	2014 年度	3 年生	約 70 時間	震災前後の様子に興味関心をもち、将来を考える
3 湊小学校	2014 年度	4 年生	約 10 時間	避難ルール，経路，場所の確認と 10 年後のまちを考える
4 湊中学校	2014 年度	全学年	1 時間	学区を離れた居住地での防災マップづくり
5 住吉小学校	2015 年度	4 年生	約 20 時間	生きていくわたしたち～地域を知る地域とつながる
6 中里小学校	2015 年度	5 年生	約 22 時間	届けよう！ わたしたちの学び～中里小からの情報発信
7 住吉中学校	2015 年度	1 年生	約 10 時間	自分たちの地域を知り，安全安心な生活を送る
8 鹿又小学校	2016 年度	6 年生	約 15 時間	10 年後につなげようこの思い～未来へつながるマップづくりを通して
9 和渕小学校	2016 年度	6 年生	約 25 時間	「まち歩き」と「マップづくり」から和渕のよさを考えよう
10 河南東中学校	2016 年度	1 年生	約 6 時間	自分たちが感じている通学路周辺についての留意点を各小学校区の防災マップを活用し，児童と保護者に伝えよう

●各学校での活動内容は、別冊「実践事例集」をご覧ください。